

## 令和7年度 篠ノ井高校(全日制)学校評価表

教育目標	①真理と学問を愛し、高い知性と豊かな教養を身につけた人の育成
	②進歩と向上を信じ、小成に甘んぜず、絶えず理想をめざす人の育成
	③精神と身体を鍛え、明朗で積極性のある人の育成
	④自主と自律を尊び、常に計画性を持ち、節度のある人の育成
	⑤勤労と責任を重んじ、堅実にして協調性のある人の育成

中期目標	①自主性・責任感を育てる
	②授業を中心にして学力の伸長を図る
	③進路目標を明確にさせ、その実現を図る
	④クラブ活動、委員会活動の充実を図る
	⑤様々な活動を通して、生徒のより豊かな心と人間性を育てる

評価項目	評価の観点	評価の材料	担当分掌	最終評価	評価 A・B・C
①いじめや体罰のない安心・安全な学校作りの推進と開かれた学校づくり	いじめ・体罰の早期発見、早期対応ができたか。	・いじめアンケートの実施と組織での対応	生徒支援係、学年	・日頃より学年会で情報交換をし、学校生活アンケートの結果及び面談週間での個人面談で情報の把握に努めた。(生徒支援係) ・日頃より学年会で情報の交換・共有を図り、学校生活アンケートの結果及び面談週間での個人面談で情報の把握に努めた。(全学年) ・4月中に個人面談を行った。(1学年)	A
	人権意識の高揚に努めたか。	・人権教育映画鑑賞、職員人権研修会の開催	人権道德教育係	・10月職員対象に「多様な生徒や保護者への対応」をテーマに研修会を実施。11月には生徒向け人権教育として映画「心の傷を癒すということ」を鑑賞。震災によって傷ついた心を、精神科医の安先生が人々の思いを聞き寄り添うことによって修復していく姿に感動したという感想が多くあった。映画を通じて、人を孤立させず支え合う大切さを実感できたようだ。	A
	生徒一人ひとりの情報を共有し、組織的な対応ができたか。	・個々の生徒に対する支援計画の立案、支援会議の開催 ・情報の共有	相談係、学年	・生徒の抱えている困難をいち早く察知し、担任・学年団と情報共有することができた。必要な内容は職員会議でも共有し、共通認識を図ることができた。カウンセラーや巡回相談を利用し、保護者への支援等も検討することができた。個別の支援計画に関しては今後必要に応じて作成していく。(相談係) ・授業や個人面談等で情報の把握に努め、学年会で情報の交換・共有を図った。必要に応じて生徒支援・生徒相談等係と連携して対応した。(2学年)	A
	交通安全の徹底、特に、自転車事故減少に努めたか。	・交通安全指導、交通事故件数の経年比較	生徒支援係	・自転車事故は4件で、昨年度に比べて2件減った。1件は大怪我をする事故となってしまったため、夏休みに入るところからヘルメット着用を義務化した。ヘルメットの着用率が100パーセントとはなっていないので、引き続き立ち番等を実施してヘルメット着用の呼びかけを行いたい。(生徒支援係)	B
②生徒の健康で健全な基本的生活習慣の確立支援	生徒の生活習慣の把握に努め、その結果を職員で共有し、個々の生徒の支援を行ったか。	・スタディーサポート、アンケート実施、面談の定期的な実施	進路探究係、学年	・各学年、例年どおり定期的な実施した。(全学年)	A
	スマホ利用に対し、適切な指導ができたか。	・スマホ使用規定作成、徹底 ・研修等の実施 ・保護者の意識醸成	生徒支援係、生徒会係、学年	・授業中や考査中にスマホをロッカーに入れない生徒が増えてきた。また、一部に情報モラルに欠ける行動が見られた。一年を通してきちんと指導したい。(生徒支援係) ・スマホ使用による学習時間の減少は明らかである。スマホ依存による生活リズムの乱れ、学習時間の浸食を防がなければならないが、「依存」レベルに到達し医療的ケアが必要になっている者もいると思われる。(2学年) ・年度当初にスマホ講演会をおこなうことで、スマホ使用の注意点を意識させることができた。(1学年)	B
	家庭学習時間の確保に努めたか。	・学習実態調査と結果の分析・改善に向けての検討 ・経年比較 ・教科課題の精選	進路探究係、学年、各教科	・学年の係を中心に分析を行っている。学習習慣の身につけていない者、不十分な者が一定数認められる。学習状況調査を継続して行い生徒の意識改善指導に努めた。また進路講話や進路学習を通して、進路に対する意識の向上を図るとともに、面談等を通じて意識の改善を促している。(全学年) ・学校全体の実態調査はスタディーサポートの学習実態調査を用いて行い、学年の係を中心に分析を行った。ベネッセ担当者による分析会(1,2学年年毎)を行い各学年生徒の学力、学習状況の把握をした。(進路探究係) ・模試の結果から自分の偏差値を知り、生活習慣の見直しを含め、目標までの差や早期に弱点を克服する重要性などのアドバイスを行った。(2学年) ・面談週間や模試結果を受けての個別面談を実施し相談、アドバイスを行った。(3学年)	A
③10年後を見据えた主体的協働的な学びの推進と進路実現への取組	自主的・探究的に学ぶ姿勢の育成に努めたか。	・「主体的・対話的で深い学び」の導入 ・キャリア教育への参加状況 ・探究学習の取り組み状況、探究的行事への参加状況	各教科 学年(進路探究担当) 生徒会	・「地域探究～篠ノ井の街歩きと書のみち篠ノ井の深掘り～」「個人探究～夏休みの一人一探究と探究発表の取り組み～」「データ分析～修学旅行先観光ポスター作成～」など生徒が主体的・協働的に学ぶ場を創ることで探究活動の基礎知識を学習することができた。(1学年) ・個人の進路に応じたテーマについて探究し、探究内容をまとめる力や、プレゼンテーション力を向上させる場を設けた。(2学年) ・消費者教育講話を実施し進路に対する学習を深めるとともに、地元中学校へのインターンシップを行い、見識と思索を深めた。(3学年)	A B
	職員の研修、スキルアップに努めたか。	・校内授業研修 ・職員進路研修会 ・研修会への参加	教頭、教務係、進路探究係	・6月に教育実習生を受け入れ、指導を通じて自らの教育を見直す良い機会となった。卒業生が教師を志す姿は、私たちに新たな活力を与えてくれた。10月には、10年経験者研修の研究授業を多数の参加者の前で行い、事後の研究会も充実したものとなった。若手からベテランまで、互いに学び合う姿勢が学校全体の成長につながった。(教務係) ・進路研修会(前年度入試総括)を5月に実施。2月には共通テスト総括の進路研修会を行った。夏休みに小論文・志望理由書の研修会(動画)で実施した(進路探究係)	A
	高大接続改革に向けて必要な資質・能力を身につけさせることができたか。	・高大接続改革の研究 ・共通テストへの対応状況 ・大学出前講座等の利用、大学アドミッションポリシー等の理解と情報の提供	進路探究係	共通テスト出願に向けて説明会を実施した。県内のみではあるが、国公立大学の情報・入試の説明会を講師を招いて8月に実施した。2月に2学年対象に県内全ての国公立大学の説明会を実施。年内入試が増加しており、その対策も含め大学出前講座や研究室訪問の実施等を検討したい(進路探究係)	B
	「主権者教育」「信州学」を有効に取り入れたか。	・各教科の授業での取り組み ・探究学習、LHRでの取り組み	学年、各教科	・「ブラシののい」を行うことで、地元の商店街や地域について探究し、文化祭での発表を行うことができた。(1学年) ・企業探究から働くことの意義、社会人に必要な能力、資質を学ぶことができた(1学年) ・地域まるごとキャンパスのガイダンスから個人でボランティアに参加する生徒が増え、社会の現実と課題への理解へとつながった。(2学年) ・参議院選挙、長野市長選挙に合わせて、マニフェストを比較するなど学習を深め、模擬投票を行った。(3学年)	B
	進路指導方針を共有し教科間連携による効果的な学習指導ができたか。	・補習計画の立案、参加状況 ・共通テスト受験者数の経年比較 ・授業アンケート、学校アンケートの満足状況 ・教科間連携の計画 ・大学合格状況、特進講座合格状況	進路探究係、学年、教科	・懇談会期間中および夏休みに補習を実施し、学力の補完・伸長を図った。(1,2学年) ・平日放課後での補習や夏期休業中での補習、特別授業を実施し、学力の補完・伸長を図った。(3学年) ・進路係を中心に全校の協力の下、特編授業を組み、各生徒の進路希望に寄り添った対応が取れるように努めた。(3学年) ・小論文や推薦・総合型での受験者に対して、進路係を中心に全教科の協力の下、個別指導を計画・実施した。(3学年) ・共通テストの受験者数等の経年比較については2月の研修会「共テ総括」で実施。特進講座の合格状況については一般選抜の結果を含め分析したい(進路探究係)	A
④主体的で対話的なクラブ活動・生徒会活動の充実	自主性と協調性を育てるクラブ活動・生徒会活動の支援ができたか。	・クラブ加入状況 ・クラブ顧問会での情報交換 ・文化祭への取り組み状況 ・委員会の活動状況、規範意識の醸成状況	生徒会係、クラブ顧問会	・クラブ活動への参加率は88%で、内訳は運動部が55%、文化部が33%となっている。これらの数値には複数のクラブに加入している(兼部している)生徒も含まれている。(生徒会) ・企画がなかなか決まらず、文化祭の準備は大変であったが、生徒たちが自ら考え工夫し、協力し合って取り組むことができた。暑さ対策など、時代の変化に応じた新しい文化祭のあり方について生徒が自ら考えて企画するよう支援できた。全体的に生徒の考えを尊重し、生徒の積極的な活動を支援することができた。(生徒会係) ・部室の適切な利用を促すため、使用ルールを見直すとともに、各学期に大掃除を実施し、継続的な環境整備に取り組んだ。(生徒会係)	B
	部活動と学業の両立を支援できたか。	・クラブ指導のあり方、クラブ活動の総時間数検討 ・学校アンケートへの意見の状況		学業に支障のないように、部活動の日数や時間など配慮している。今後、部活動のあり方について検討を続けていく必要がある。(生徒会係)	B
⑤地域や外部機関との連携推進と取組の発信	地域への情報発信に努め、地域行事への参加や地域人材の活用を推進したか	・地域行事への参加、地域人材の活用状況 ・中学生の公開授業への参加状況、中学校への説明会実施	教務係、生徒会係、PTA同窓会係、各教科	・公開授業は、5月(参加者329名)と9月(参加者110名)の2回実施し、地域の方々を含め多くの来場があった。8月の体験入学には570名が参加し、多くの中学生とその保護者が本校を見学した。さらに、教頭を中心とする将来像検討委員が近隣を含む11の中学校を訪問し、本校の特色や良さを積極的に説明することができた。(教務係) ・文化祭では広く一般公開を行い、保護者や中学生、近隣の方など約2500人の来校があった。また、生徒が地域の懇談会やイベントのボランティアに参加するなど、地域と深く関わることができている。(生徒会係) ・PTA加入について、同意を求めた文書を新入生保護者に配布し、全家庭の協力(加入)が得られた。またPTA総会では、ギターマンドリン部によるアトラクションも企画し、例年より多くの保護者参加が得られた。(PTA同窓会係)	A